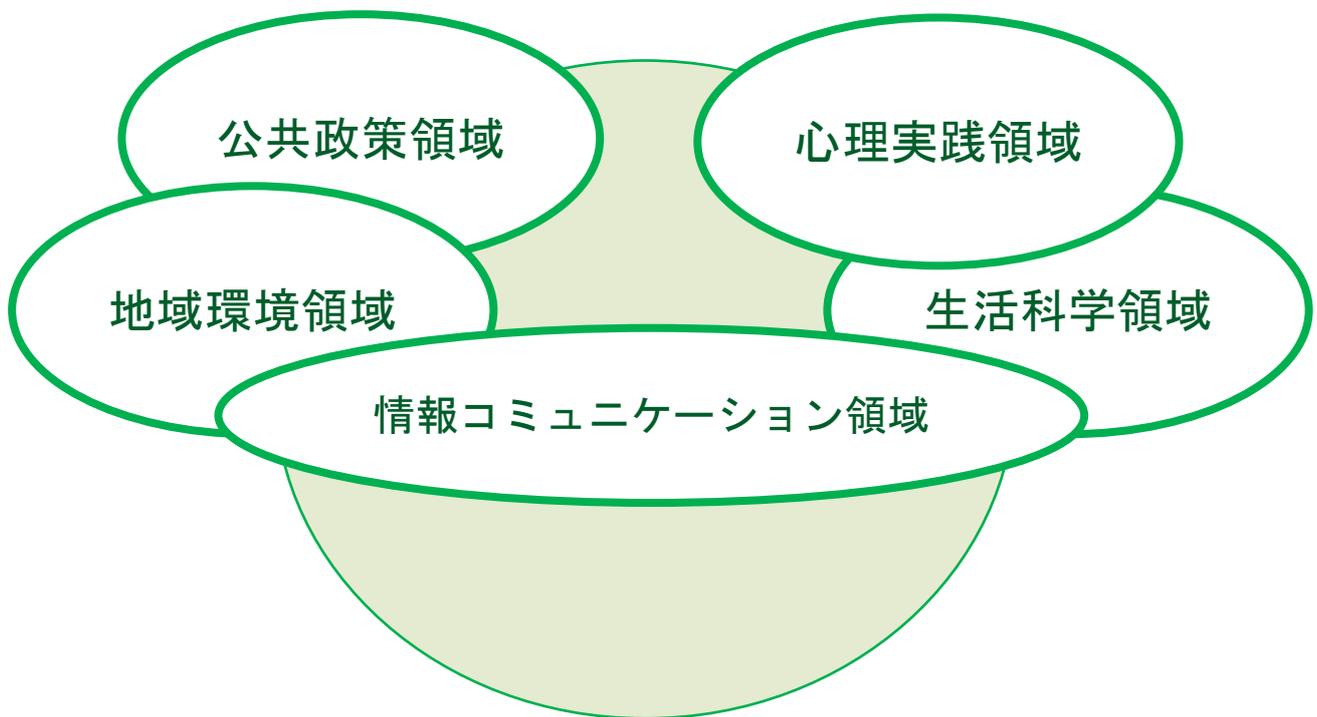


# 地域社会コース

教室(理論)と現場(体験)を往還して社会を実践的に学ぶ

- 「地域社会コース」では、法学、経済学、政治学、社会学などの社会科学の知識を身につけると同時に、地理学、環境学、生活科学、心理学、情報科学の素養も身につけ、総合的な視野で地域の問題を見通す力を養います。
- 地域の問題を机上でのみ理解するのではなく、地域の人々の生活や社会的活動、行政や企業の活動の実態を、実際に地域に入り多角的に調査する、実践的な実習を行います。
- 地域の多様な生活資源、環境資源、文化資源等の発掘・再評価を行い、よりよい産業・働き方・生活の方向性を提言し、その実現に貢献できる人材を育成します。

## 地域社会コースの5領域



地域社会コースは、法学や経済学などを学ぶ「**公共政策領域**」、社会学や地理学などを学ぶ「**地域環境領域**」、地域食資源を活用した商品開発や住環境などを学ぶ「**生活科学領域**」、心理学を学び認定心理士の資格を取得できる「**心理実践領域**」、ICTを学ぶ「**情報コミュニケーション領域**」の5領域で構成され、専門的かつ多角的に地域社会について学ぶことができます。

地域文化学科では、複数の領域を選択して学んでいくことができます。

## 各領域の紹介

公共政策 領 域	<p>公共政策領域は、法学、経済学、金融論、政治学、行政学、公共政策学、社会学という社会科学の主要な学問分野の基礎から最新の研究まで複合的に学ぶことのできる領域です。法と経済を中心に、広く社会科学分野の知識と視点、方法を身につけることで、社会や地域、経済・金融、生活、文化等の問題について多角的な視点から考えることができ、社会的な問題（公共的課題）の解決へ向けた具体的な提言や取り組みができる人材の育成を目的としています。</p>	
	主な授業	<p>法学の主な授業：日本国憲法、法律学概論、民法、法律学判例演習            経済学の主な授業：経済学概論、金融論、ミクロ経済学、マクロ経済学            政治学・行政学の主な授業：政治学概論、地方自治論、行政学            政策学系の主な授業：公共政策学概論、公共政策学、環境計画論            社会学の主な授業：社会学概論、芸術・文化と社会、環境社会学            ※この他に英語等の文献を使用する外国書講読の授業もあります。</p>
関連する資格	<p>FP（ファイナンシャル・プランニング）技能士、証券アナリスト、簿記、金融窓口サービス技能士、銀行業務検定、行政書士、司法書士、法人税法能力検定、宅建（宅地建物取引士）、土地家屋調査士、社会保険労務士 など</p>	
地域環境 領 域	<p>この領域では、社会学や地理学、地誌学、生態学、水文学などの学問領域を横断的に学習して基礎知識を習得したうえで、これらの視点から地域を調査・観察する実習や演習を段階的に行います。そして、卒業研究では、地域の様々な人間活動や自然環境の特徴や課題を明らかにすることに取り組みます。これらの経験を通じて、地域を学際的・総合的に“診る”力を養うことができます。教員の専門分野は様々ですが、現場に出て、「地域」を総合的にみる（診る、観る、見る）ことを重視して、領域学生を育てていきます。</p>	
	主な授業	<p>専門講義：地域社会学概論、生態学概論、地域づくり論、現代社会論            人文地理学概論、自然地理学概論、自然環境論、地誌学概論            福祉社会論、経済地理学、日本地誌、観光地域論            水文学ⅠⅡ、環境データ分析ほか            実験・実習：地域環境基礎実験実習ⅠⅡ、地域統計分析演習            地域環境野外実験Ⅰ～Ⅵ            専門演習：地域社会学演習、地理学演習、生態学演習</p>
心理実践 領 域	<p>心理実践領域は、地域によって背景の異なる諸問題を、主に心理学の視点から探求することを目指します。心理学は、人間の心を科学的なアプローチにより探求する学問です。人間は様々な側面を併せ持った複雑な存在であり、このような対象を理解するためには幅広い視野と知識、自己のあり方への客観的かつ絶え間ない省察が必要になります。そこで、本領域ではこの目的に資するため心理学の様々な領域について体系的かつ実践的に学びます。</p>	
	主な授業	<p>心理学概論、心理学、臨床心理学概論、教育臨床概論            心理学特殊講（家族心理学）、心理学特殊講義（対人理解の心理学）            生徒の理解と指導、心理学研究法演習</p>
取得できる資格 関連する資格	<p>取得できる資格：認定心理士            関連する資格：臨床心理士受験資格、学校心理士            ※関連する資格はいずれも大学院を修了することが必要です</p>	

生活科学 領域	<p>地域に暮らす人々の生活の質（Quality of Life）の向上や、環境と調和した生活による持続可能な社会形成を目的とし、主として衣・食・住・健康・消費の分野について、生活に関連する制度・文化・機能などを社会・人文・自然科学にまたがり多面的・総合的に学びます。こうした生活者の視点を、地域住民の生活を支える行政や、商品・サービスを開発する企業活動に取り入れていける人材の養成を目指しています。</p> <p>特に、調査や実習・実験により、実証的に学ぶことを重視しています。住環境に主眼をおいた住まい・まちづくり、生活関連商品のデザイン、地域資源を活用した新商品の開発、流通・商談やマーケティング活動等、教員・学生ともに実際に多くのプロジェクトに参加しています。「言うのとすることでは大違い」で、当事者意識で行動することで初めて本質的な問題点に気づき、実社会を知ることができます。「評論家目線による提言」よりも「行動して実践すること」に価値を感じる皆さんは、是非一緒に活動して学んでいきましょう。</p>	
	主な授業	<p>地域資源活用論、地域食品健康論、健康栄養学、子どもの食と栄養          栄養生化学特論、地域食資源活用実験・演習、健康栄養学実験・演習          「自然環境と住まいー建築環境学入門ー」、「地域生活学概論（共同）」          「住環境科学Ⅰ（環境共生住居論）」、「住環境科学Ⅱ（住環境と健康）」          「住居学概論」、「住生活調査・演習Ⅰ（冬季・室内環境）」          「住生活調査・演習Ⅱ（夏季・地域環境）」</p>
関連する資格	<p>ファッションコーディネーター、カラーコーディネーター、福祉住環境コーディネーター、サプリメントアドバイザー</p>	

情報 コミュニケ ーション 領域	<p>情報発信などを支える情報コミュニケーション技術（ICT）であるプログラミング、インターネット、データベース、マルチメディア等の基礎的な知識と技法を理解し、身につけることで、社会科学や人文科学でのICTの活用をすすめることができる能力を培います。</p>	
	主な授業	<p>プログラミング入門、情報処理入門、統計技法、インターネット活用技法          地域統計学基礎、地域データベース論、マルチメディア技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングに関連する授業：ICTを理解するうえで重要なプログラミングについて学びます。プログラミングなんて、という方もいらっしゃるでしょうが、初学者向けでわかりやすい授業を行います。</li> <li>・データベースに関連する授業：地域のデータを蓄積する方法を学びます。</li> <li>・インターネットに関連する授業：今や我々の生活に入り込んでいるインターネットについて、理解していきます。</li> <li>・マルチメディアに関連する授業：コンピュータによる画像処理やコンピュータによるデザインを学びます。</li> </ul>
関連する資格	<p>ITパスポート、MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）</p>	

## 地域社会コースの教員

池本 敦	教授	栄養生化学、食品機能学、食品環境学、地域資源活用
上田 晴彦	教授	コンピュータシミュレーションとその解析
篠原 修一	教授	地誌学、水産地理学
柴田 健	教授	臨床心理学
林 武司	教授	水文学、自然地理学
林 良雄	教授	情報科学
石沢 真貴	准教授	地域社会学
和泉 浩	准教授	社会学(社会学理論、音楽社会学、都市社会学など)
北島 正人	准教授	臨床心理学
佐々木 重雄	准教授	計算機科学
高樋 さち子	准教授	環境政策学
成田 憲二	准教授	植物生態学、環境科学
西川 竜二	准教授	建築環境学、住環境教育、住生活科学
宮野 素子	准教授	臨床心理学、分析心理学、精神療法
荒井 壮一	講師	経済学、金融政策
植村 円香	講師	人文地理学、農業地理学、経済地理学
小野寺 倫子	講師	民法
中澤 俊輔	講師	政治学、日本政治外交史
高田 千恵子	特任教授	臨床心理学
保坂 正智	特任准教授	地域連携コーディネーター

## 地域社会コースの授業の例

授業科目名	金融論	
担当教員	荒井壮一（経済学）	
授業の紹介		
<p>金融＝お金儲けの手法、強者の論理、などと単純にイメージされることがしばしばあります。しかしながら、お金それ自体に善悪はありませんし、金融の知識は強者のパワーの源となる一方で、同時に弱者が賢く生き抜くためのツールにもなり得ます。何より、生きる上で（消費者として、民間企業の従業員として、国民の税金を預かる公務員として）、お金に関わらないということはありません。そうであるならば、いっそ「強者の論理」を敢えて学び、自分なりの生き方を考えるための糧とする。そうした覚悟が、現代社会を生き抜く上でいま必要とされているのではないのでしょうか。</p>		

…そんなことを考えつつ、この授業を担当しています。この授業では、金融の意義＝なぜお金の貸し借りが必要になるのか、ということからはじめて、金融の基本的な知識や近年における金融危機の背景などについて学びます。講義形式（座学）ですが、様々な経済理論が現実の具体例と結びついているということを理解してもらうために、最新のニュース等をできる限り多く扱うことを心がけています。授業を通して、生きる力を多少なりとも養ってくれれば幸いです。



### 受講している学生の声

- 株式や証券などの金融の事について学ぶ授業です。経済的な知識を身につけることができるため、さまざまな場面で役に立つと思います。計算などを使うため、少し難しいですが、先生がわかりやすく丁寧に教えてくれるので、心配することはないと思います。
- 銀行の役割などについて、奥深くまで学ぶことができます。将来、金融機関に勤めようと思っている人であれば、知っておかなければいけない知識を得ることができると思います。
- 豊富な授業内容を明るい語り口でわかりやすく、テンポよく教えてくれます。高校では触れることの少ない経済分野への興味をかきたてられ、面白いです。
- 先生が楽しい人。力を抜いて授業に参加できる。公共政策の先生方は穏やかな人が多い。
- 実際にこの授業を履修してみて、経済に関するニュースや新聞記事に興味がわきました。
- 公共政策領域の授業は、どれも社会のしくみを学ぶことができるものばかりですし、生きていく上でためになるものだと思います。
- 公共政策領域について、最初は漠然としたイメージしか持てないかもしれませんが、法学、政治学、経済学、社会学などのさまざまな学問を学び、全体像が見えてくるようになったとき、1つの大きな「公共政策」というものを扱えるようになります。

授業科目名	地域環境基礎実験実習 I
担当教員	石沢真貴・植村円香・篠原秀一・成田憲二・林 武司
授業の紹介	<p>地域を多角的に見る能力を実践的に養うことを目的として、地域社会学・地理学・生態学分野における地域研究の基礎的な技能を室内作業や野外実習等によって学びます。各分野の調査対象や調査方法の特色を理解し、それらを組み合わせることで地域の特徴や実状、課題などを多角的に把握するための調査計画を立案できるようになることを目標としています。</p>
	 

## 地域社会コース卒業後に活躍できる分野

### ●公務員

国家公務員一般職(旧Ⅱ種)・国税専門官・裁判所職員などの国家公務員  
 県・市町村職員・警察官などの地方公務員など

### ●民間企業

卸・小売業、サービス業、金融・保険業、情報通信業、運輸業、製造業、飲食・宿泊業など

### ●臨床心理士

※臨床心理士の資格取得には大学院進学が必要